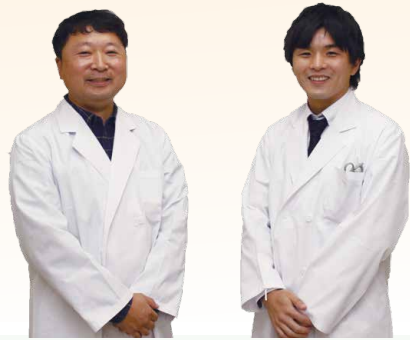
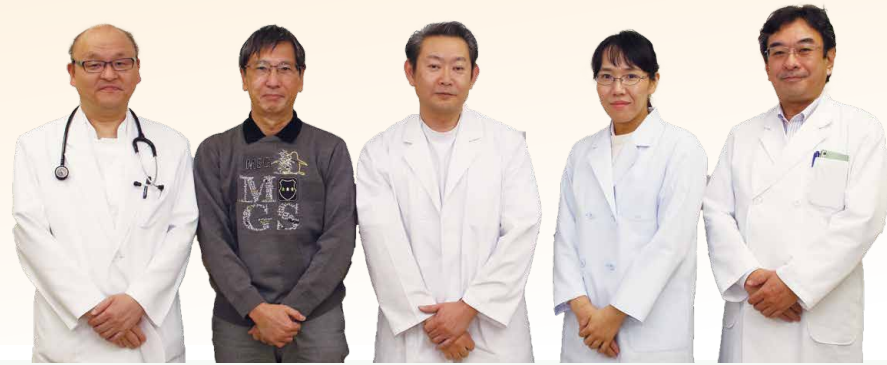


## 薬剤師



患者さんの自宅に薬を配達し、薬の飲み方の説明を行います。また、患者さんが飲み忘れて家に残った薬も無駄にならないよう、薬の出し方を調整しています。

## 医師



高齢者や病気などで通院が難しくなった人の自宅を訪問して、身体の状態を確認したり、必要に応じて治療をしたりしています。病院での生活は制限も多いですが、自宅では最期までその人らしい暮らしを続けることもできます。訪問医として、患者さんと家族の気持ちに寄り添い、医療を提供しています。

## 基幹病院



心臓病や脳卒中、骨折などの患者さんに対し、治療や手術をするとともに、その後の麻痺や体の衰弱を改善するためのリハビリを行います。日常生活を送る上での生活全般の機能を向上する病院で

のリハビリが、介護の負担を減らすことにつながり、患者さんもその家族も在宅医療を選びやすくなります。基幹病院では、退院後も在宅医療を受ける患者さんへの継続的な支援を行っています。

### 多職種連携会議

その名の通り参加している専門職は実にさまざま。ここでは、それぞれの職種や組織の役割を紹介する。

在宅医療を行う医師に対しての職種の人たちがインタビューして、互いに理解を深めているグループもあれば、現場の声を聞き取って多職種の連携を図るために、ヘルパー事業所へアンケートを行う準備を進めていたグループもあった。

この会議に参加しているメンバーには「目の前の患者さんを、そして最終的にはこの地域全体を良くしたい」という共通の目標がある。だからこそ、それぞれの立場は異なっても、互いの専門性を尊重しながら議論ができる。これからも、このまちの医療と介護を支える専門家たちの取り組みは続いていく。

### 幅広い専門職が集う場

仕事を終えたメンバーが開始時間前から集まり、自然に輪が作られる。最近こんなことがあったという世間話からそれぞれの業務の専門的な悩みにいたるまで会話は弾む。会議が始まると、さまざまな職種が入り交じり「多職種の情報交換」、「市民への啓発」、「在宅医療の人材育成」、「終末期ケアのスキルアップ」の4つのグループに分かれて、議論が交わされた。

### 連携でまちを支える

昨年度から始まったこの会議。各職種がそれぞれの業務を紹介して互いの仕事を知る機会を持つたり、職種ごとの研修会を開いて自分たちの仕事のスキルを高めたりと活動内容は多岐に渡る。また、地域の人に在宅医療を知ってもらうための企画も考えており、外部への発信にも力を注いでいる。



市民啓発に取り組むグループでは、2月に行われる講演会に向け、どうしても多くの市民が来てくれるかメンバーで意見を出し合っていた。

# 医療と介護の 連携に向けて

～多職種連携会議に密着～

高齢化に伴い、医療と介護の両方の支援が必要な人は、今後増加の一途をたどるとされる。そのような中、患者さんへのサービスを向上させるために、月に一度、在宅医療に携わる医療・福祉関係者が集い、議論が交わされている。その会議の様子や議論の内容をここで紹介したい。

## 歯科医師



通院が困難な患者さんの自宅に訪問して、歯の治療などを行います。患者さんの歯を良い状態に保ち、楽しく食事をしてもらえるよう努めています。まずは、かかりつけの歯科医に相談を。

## 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所



地域包括支援センターと居宅介護支援事業所は、相談にのることで在宅での生活や介護予防をサポートしています。介護や医療、福祉など、必要な人に必要な支援と情報を提供します。また、地域の人たちの悩みや相談を受け、関係機関との橋渡しを行い、連携して課題を解決していきます。

## 社会福祉協議会 介護福祉士 社会福祉士



自宅に訪問して食事を作るなど家事をお手伝いします(介護福祉士(ヘルパー))。介護が必要な人の相談にのったり、在宅で最期まで過ごしたい人が、住み慣れた家で安心して暮らせるような地域づくりを行っています(社会福祉協議会・社会福祉士)。

## 訪問看護師



患者さんの自宅を訪問し継続的な看護を行います。医師と相談しながら、健康状態のチェックやきずの手当てをしたり、患者さんや家族から療養の相談を受けた際には、適切なアドバイスをしています。